阿武隈川サミット
10年のあゆみ

阿武隈川サミット実行委員会

阿武隈川の概要

【特　徴】

阿武隈川は、福島・栃木両県にまたがる那須連峰の旭岳（1,835m）に源を発し、福島県の中通り地方、宮城県の県南地方を流下後仙台湾に注ぐ流域面積5,400km²（内福島県分4,080km²）、幹線流路延長239km（内福島県分189.5km）の河川で、流域面積で全国第11位（東北第３位）、流路延長で全国第６位（東北第２位）の規模を持っており、北上川や最上川と比べて、狭い流域の中に人口・資産が集積した状況となっています。

【特　性】

流域の特性は、左岸に急峻で土砂流域の多い火山性の奥羽山脈、右岸に比較的緩やかで丘陵的な阿武隈川山地を有しており、河道には、岩が露出した狭窄部が断続的に存在し、狭窄部の上流に形成された盆地内に都市が発達し、沿川の主要都市の多くは左岸側に位置しています。

また、福島県の中通り地方及び宮城県の県南部は、東北地方でも降水量の比較的少ない地域であるため、阿武隈川の流域の年間降水量は、山間部で1,500mm～1,800mm、平地部で1,200mm～1,300mm程度となっています。

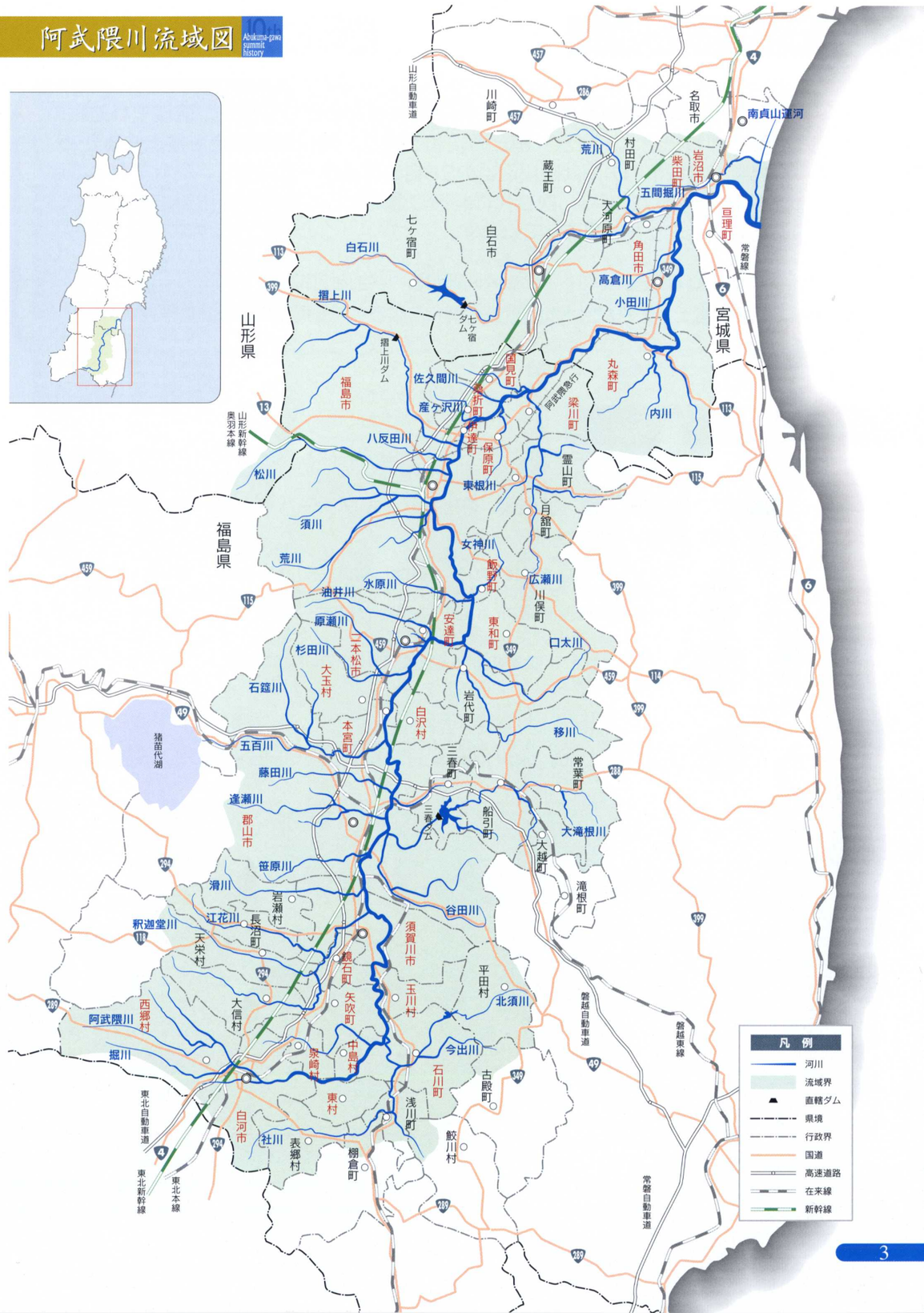
阿武隈川源流　雪割橋付近（西郷村）

阿武隈川と逢瀬川合流付近（郡山市）

福島市東部を流れる阿武隈川（福島市）

太平洋に注ぐ阿武隈川（岩沼市・亘理町）

阿武隈川流域図



目的

母なる川、阿武隈川をよく知り、川との共生をめざしながら、流域それぞれの実態に即した治水・利水計画との調和を図り、河川環境保全を推進するため、福島県・宮城県内の阿武隈川沿いの29自治体長が一堂に会し、それぞれの地域で役割分担をしながら、次世代に共通の遺産として良好な河川環境を伝えていくため、サミットを開催しています。

◆阿武隈川をよく知る　◆阿武隈川との共生を目指す
◆流域それぞれが治水利水計画の調和を図る　◆河川環境保全を推進する

組織

福島県　5市12町7村　宮城県　2市3町とオブザーバー、アドバイザーで構成され、活動しています。

実行委員会

メンバー
西郷村・白河市・泉崎村・東村・中島村・石川町・玉川村・矢吹町・鏡石町・須賀川市・郡山市・白沢村・本宮町・大玉村・二本松市・安達町・東和町・飯野町・福島市・伊達町・桑折町・保原町・国見町・梁川町・丸森町・角田市・柴田町・岩沼市・亘理町

アドバイザー
国土交通省福島河川国道事務所・国土交通省仙台河川国道事務所
福島県・宮城県

オブザーバー
表郷村・棚倉町・鮫川村・浅川町・古殿町・平田村・大信村・天栄村・長沼町・岩瀬村・滝根町・大越町・常葉町・船引町・三春町・岩代町・川俣町・月舘町・霊山町・七ヶ宿町・白石市・大河原町・川崎町・蔵王町・村田町・名取市

阿武隈川サミットの10年

1994	平成6年10月	第1回阿武隈川サミット
1995	平成7年11月 12月	第2回阿武隈川サミット 「阿武隈川の詩」募集（～平成8年2月）
1996	平成8年2月 3月 8月 10月	作曲家小椋桂氏　阿武隈川現地視察 「阿武隈川の詩」入賞者表彰式 上中下流児童交流会（亘理町） 第3回阿武隈川サミット 「あぶくまの川の詩」制作発表　小椋桂コンサート
1997	平成9年7月 8月 10月	「河川環境ー私の主張」募集（～8月） 上中下流児童交流会（白河市・福島市） 第4回阿武隈川サミット 「河川環境ー私の主張」入賞者表彰式
1998	平成10年7月 9月 10月	キャラクターデザイン募集（～8月） キャラクターデザイン最終選考会 第5回阿武隈川サミット キャラクターデザイン発表・入賞者表彰式
1999	平成11年3月 6月 8月 10月	サミットマスコット愛称募集（～4月） サミットマスコット愛称最終選考会 上中下流児童交流会（郡山市） 第6回阿武隈川サミット サミットマスコット愛称発表・表彰式
2000	平成12年8月 11月	上中下流児童交流会（西郷村） 第7回阿武隈川サミット
2001	平成13年7月 8月 10月 11月	河口クリーンアップ作戦（亘理町） 第1回阿武隈川リバースクール（東和町） 上中下流児童交流会（丸森町） 第8回阿武隈川サミット 源流の里植樹会 阿武隈川サイクリング大会（福島市・伊達町）
2002	平成14年7月 8月 10月	河口クリーンアップ作戦（亘理町） 第2回阿武隈川リバースクール（東和町） 源流探検（西郷村） 第9回阿武隈川サミット